

チェロ公開レッスン Cello Masterclass

ルイス・クラレット

Lluís Claret



PROGRAM

<公開レッスン Masterclass>

6/19

- 小粥 麻莉菜 Marina Kogayu (学部4年)
D. Shostakovich/Cello Sonata
- 利倉 央次朗 Ojira Toshikura (大学院科目等履修生1年)
G. Cassadó/Suite for Cello Solo, 1st and 2nd movements

6/20

- 梶原 葉子 Yoko Kajiwara (アーティスト・ディプロマ1年)
D. Shostakovich/ Cello Concerto No. 1, 1st and 3rd movements

6/20

- 藤原 寛太 Kanta Fujiwara (付属高校2年)
A. Dvořák/Cello Concerto (1st movement)
- 村松 幸実 Satomi Muramatsu (大学院科目等履修生1年)
G. Cassadó/Suite for Cello Solo, 1st and 2nd movements
- 鈴木 海市 Kaishi Suzuki (アーティスト・ディプロマ1年)
F. Schubert/Arpeggione Sonata

2023年度 特別招聘演奏家シリーズ

2023. 6/19(月), 6/20(火)

両日とも 17:30~

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス

L152 アンサンブル室 (6/19)

TCM ホール (6/20)

カタロニア出身の両親がフランコ将軍の独裁に反旗を翻し亡命した地、アンドラで1951年に生まれる。両親と親交が深いパブロ・カザルスが名付け親となる。そのカザルスの影響でチェロを始め、リセウの音楽院を優等で卒業した後、フランス、イタリア、アメリカで研鑽を積む。その間、モーリス・ジャンドロンらから指導を受けるほか、エンリック・カザルス(パブロ・カザルスの弟)から徹底した音楽教育を受ける。また、ジョルジ・セボック、バーナード・グリーンハウスからも多大な影響を受ける。ボローニャ国際コンクール(75年)、カザルス国際コンクール(76年)、ロストロポーヴィチ国際コンクール(77年)に優勝し、世界を舞台に活躍を始める。これまで、ブーレーズ、ミュンヒンガー、ノイマン、ロストロポーヴィチら巨匠の指揮で、ワシントン・ナショナル管、モスクワ・フィル、フランス国立管、イギリス室内管、チェコ・フィルなど世界各地のメジャー・オーケストラと共演する。バルセロナ五輪の閉会式では、カタロニアを代表する音楽家として、ソプラノのビクトリア・デ・ロス・アンヘレスと共にカタルーニャ民謡『鳥の歌』を演奏する。室内楽にも力を注いでおり、ベルリン・トリオのメンバーとして活躍するほか、著名演奏家と共演を重ねている。レパートリーは幅広く、現代作曲家(デュティユー、ルトスワフスキ、ブーレーズ、クセナキス等)からの献呈された作品の初演も数多い。ソロ、室内楽、協奏曲のCDが数多くリリースされている。演奏活動に加え、国際コンクールの審査員、音楽祭の監督など幅広い活動を展開している。現在、ニューイングランド音楽院教授。

—入場無料— 要申し込み

事前申し込み(6月18日 17:00まで)

右のQRコードからお申込みいただけます。

※本学学生、教職員の方は事前のお申込みは不要です。

問い合わせ先: 国際交流センター

study_abroad@tokyo-ondai.ac.jp

